

# 先生の夏休み職場体験 まちづくりレポート



▲昨年の防災訓練(南中学校体育館)

## 防災の日にちなみ

### NPO法人 高浜南部まちづくり協議会で 防災と中学生 について聞いてみました

もし、授業中に大地震がおきたら?生徒たちとの日常のなかで心配になることがあります。南中生のなかには9月の「総合防災訓練」に参加して防災を学んでいる人もいますが、もっと中学生が地域の方といっしょになってできることはないかと、伺ってみました。

愛知県内の小中学校の先生は、勤務11年目になると学校外の業種で研修を3日間行います。まるで、中学生の皆さんと同じ「職場体験」です。南中学校の有川慎吾先生が高浜市役所で研修し、まちづくりの現場を体験し、レポートしました。



## 防災は自分と家族が生きるための基本事項

### 災害への備えはまちづくりの基本

神谷義国さんは「まちづくり協議会は、自分たちの住むまちをよくしたい、安心して暮らし続けたいと、いろいろな地域団体が協力しあう組織です。当然学校や園もその仲間です。会議には校長先生や園長先生も出席していますし、園児の避難訓練を町内会などが手伝うこともあります。自然災害が多い昨今では、防災はまちづくりの基本だし、自分と家族が生きていくのに必須の知識になると思いますよ。今は外国籍の方への意識啓発も視野に入れなくてはならない時代で、中学生にできることはたくさんあるはずです。」と語ってくれました。

### 中学生は災害時とともに動く仲間

「昼間の市内は子どもと高齢者が多い。そのなかで中学生は災害対応の観点からは戦力です。東日本大震災では、防災の知識をしっかりと身につけた中学生がいち早く避難を呼びかけ、小さい子の手をひくなどして逃げた。”釜石の奇跡”といわれます。高浜市の中学生も“防災訓練”を真剣に行い、まずは自分の命を守る知識をもってほしい。そのうえで“助ける側”になってほしい。大地震はきっときますよ。」と、防災士でもある福島事務局長。「こども防災リーダー養成講座」などで市内全域の子どもたちに指導しているそうです。



▲昨年の防災訓練にて。中学生も役割をもって参加



▲高浜南部ふれあいプラザにて、福島事務局長と神谷理事

## そのほかにも参加してみました

### ■高浜市市民会議50(7/20)

市制50周年を盛りあげようという約30人の市民メンバーが集まる意見交換の場を見学。「若者会議」の中学生が、楽しいことだけでなく、市のよいところを知らせようと活動を考え、大人の前でしっかり発言する姿に感心しました。南中生にも伝えたいです。

### ■高浜市総合計画推進会議(8/1)

後期基本計画に基づく昨年度の市の動きについての説明に、市民委員からの意見が出され、同じ市民として興味深く傍聴しました。



災害はいつか来るかもじゃなくて、“絶対に来る”と教員も生徒も意識しなくては

まちづくりへの熱意に感心し、各地からの視察があるということにも驚きました。また、実際の発災時に教員と生徒は南中の避難所開設にどう動くのか、真剣に備える必要があると実感しました。